

吉田幸一編

螺本枕草子

斑山文庫本

古典文庫

吉田幸一編

界本枕草子

斑山文庫本

古
典
文
庫

璵本
枕草子

高野長之著
慶長頃古寫本

二冊

杞子残

花

昭和二〇年十月十日

熙山文庫主人高壁良之藏

春をうきのまゝにひきとるよ
うちじゆめいをもつてしよれし
あはまほはとくもとくと
夏の月のじゆぢゆねやまくまわしく
むらじゆみゆじゆくまくまくのふら
むらじゆじゆとすまのやまゆりと
りじゆをとす

林をうきのまゝにひきとるよ
まくまく鳥の羽ふくみくとくとく
とうとくとくとくとくとくとく

まみむらふとと一り入るのち間のまよ
のあゆとくらむをきふらはせりとす
老翁とぞ古め洛とくらはせりとす
いと白羽とみゆのとくらはせりとす
ちとくらはせりとくらはせりとす
まみむらふとくらはせりとくらはせり
そとくらはせりとくらはせりとくらはせり
とくらはせりとくらはせりとくらはせり

正月九十九日清とてひよつまじいとす

柳やくわの葉をもとす月写れタマミ

正月九十九日清とてひよつまじいとす

り極力氣のための所と云ふものゝ善やうある
わの菖蒲のをせうりはてたばつ草まであり
ふうしていをと

風きやうか二三月をうけつて種く
あまやうに風又月の氣よつて風く
い風ふ吹く風く

勢へ行こう本の花へじさきててあらが
うすまやうに花くとくとくとくとくとく
が花まよとのえひとひきのねほんとてかどく
よほんとてかどく

と一うすてうへ月はまう
比の橋のひともくれまわらあつむかへと
そよごくめのまへとへれのまへと
ちのまとみへとくわくまへとくわくま
かくまくわくまの橋やとくまとくま
郭えりすとくわくわくわくわくわく
ゆうとくわくわくわくわくわくわく
まくはくわくわくわくわくわくわく
まくまくまくまくまくまくまくまく

あつてふしきとひめら やまとをもとせば
て支那をじゆうとせんりとくとくとて學
びを乞はむひのへ 小さきをぬひともか
きつまなき楊貴妃著ふとのほひよき
歎きよかねの匂ひよだれて梨花一枚青葉面と
ひじきがすきとせひゆふく河の花
りひそく一枝の花は紫うきとくとくとく
りみどりうきとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

が、そなへるにあらうかとおもひてゐる
まぢりのときもあつて、それで、わざ
を外せ本のよからずをあらへば、
アレは、かくしてくわねうるを、
てきみけふうき、また、けのひをもあ
年、の本につきしめんのうどきや
あきうだのうひをあらへば、あらへば、
とく、神をうしのあじくらへるを、
ほり、やうのね、まのい、うひ、うひ、
えらうと、れううちのよふうの本を

の本多はおひがいの事とおもひてゐる事
に、一月の間、二月の間、三月の間、
本の中ややこもれとて、二位三位の間へ
まねまねうきとて、或る事あ人のやうな事
事ありて、金くじらがふくらむ事ある事とて、
少々まこととす事との事とのせを、國へ
むけり、りそと人をうけたり、まくらを
よぶて、裏かづけて、まつて、一ゆきの間と
おもつばねいぢやあましやまくらふ
ことをおもひゆうのふくらふ

さういふ事は本へられて是の代と
やへやへとおとねまく所のあとにあ
る事もへりとあるまへれの事と
そけうりてはるよとへんじゆうへん
るやうつてすうせうめうめうめ
ゆきをひきかへと花の下をと
あきうしゆくとくとくわらわらひもと
そよそよとくとくとくとくとくとくと
そよそよとくとくとくとくとくとくと
そよそよとくとくとくとくとくとくと